

御城印への想い

戦国武将毛利元就公の三男小早川隆景公は、瀬戸内海を軍事的に掌握するため、三原沖に浮かぶ大小の島を繋いで海城を築いた。特に、天主台の石垣は扇型の勾配が美しい。また、当時は満潮時に海に浮かんでいるように見えたことから浮城と呼ばれた。豊臣秀吉公や徳川家康公も三原城を訪れた際に、その素晴らしさに感動した。



【揮毫】小早川隆景公就所

栄山寺住職

垣井賢祥



国指定史跡 続日本百名城
備後国

三原城

年 月 日

